

# いちよし中小型成長株ファンド

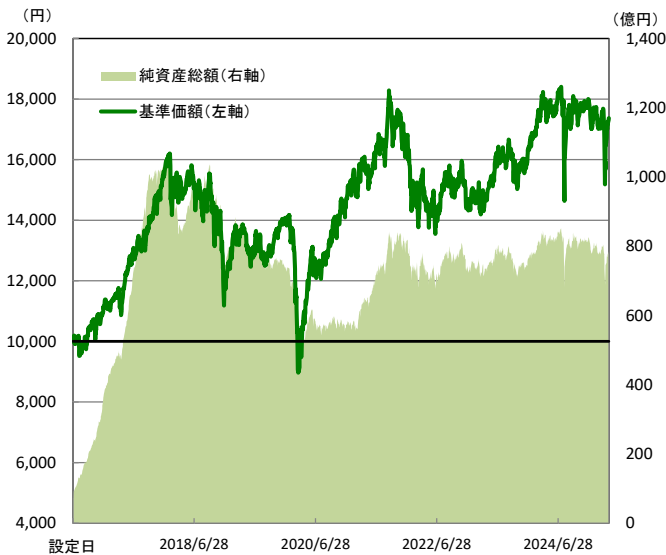
追加型投信/国内/株式

# あすよろ

## ファンド・データ

- 設定日: 2016年6月29日
- 決算日: 毎年6月29日  
(休業日の場合は翌営業日)
- 信託期間: 無期限
- 信託報酬: 純資産総額に対し年1.584%(税抜 年1.44%)

## ■基準価額の推移



※基準価額は1万口当たりの金額です。  
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。  
 ※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果を約束するものではありません。

## ■組入上位10銘柄

証券コード	銘柄	業種	組入比率	企業概要
1 5393	ニチアス	ガラス・土石製品	2.8%	「断つ・保つ」の技術をベースに半導体、自動車、プラント、建材向けに様々な製品を投入している。安定的な業績と積極的な株主還元が注目できる。
2 6436	アマノ	機械	2.7%	就業管理システム等を手掛ける。企業側では従業員の労働時間管理が必須となりつつあり、当社システムは安定的な需要が見込まれる。
3 6332	月島ホールディングス	機械	2.7%	上下水処理装置等を手掛ける。処理施設の老朽化で、安定的な更新需要が見込まれる。株主還元面でも注目できる。
4 4732	ユー・エス・エス	サービス業	2.6%	中古車オークション会場の運営を行う。中古車市場の拡大を受け、安定的な成長が見込まれる。株主還元面でも注目できる。
5 3543	コメダホールディングス	卸売業	2.6%	「コメダ珈琲店」をFC展開。シニア層を中心としたリピータに支持されているため、安定的な業態となっている。海外展開も注目できる。
6 7575	日本ライフライン	卸売業	2.6%	心臓血管、消化器領域の医療機器を提供している。心房細動の手術で使用されるカテーテルの売上増加が期待されている。
7 3569	セーレン	繊維製品	2.4%	自動車用シート材大手。軽量で耐久性が高い人工皮革「クオーレ」は、新たに中国EVメーカーでの採用が進んでおり、中期的に拡販が進むと予想される。
8 6454	マックス	機械	2.3%	ホチキス、建築工具を製造。特に鉄筋結束機は建築現場での人手不足を解消することが期待されるため、中期的に拡販が進むと予想される。
9 9069	センコーグループホールディングス	陸運業	2.3%	企業から物流業務を受託する3PL企業。物流に加え、積極的なM&Aで業容の拡大を進めている。株主還元面でも注目できる。
10 141A	トライアルホールディングス	小売業	2.2%	九州地盤のディスカウントストアで、現在、全国展開を進めている。低価格を実現するための効率的な店舗オペレーションで、高成長が続くと予想される。

※組入比率は、マザーファンド純資産総額を100%として計算した値です。

## ■基準価額および純資産総額

基準価額	17,376円
前月末比	+134円
純資産総額	784.3億円

## ■マザーファンド組入銘柄数

106 銘柄
--------

## ■ファンド騰落率

1か月	3か月	6か月	1年	3年	5年	設定来
+0.78%	-1.68%	-1.96%	-2.33%	+18.69%	+53.01%	+73.76%

※ファンドの騰落率は、課税前分配金を再投資したもとして計算しています。  
 ※設定来については、設定時の基準価額10,000円を基準にして計算しています。  
 ※上記騰落率は、実際の投資家利回りとは異なります。

## ■市場別分類

市場	組入比率
東証プライム	79.2%
東証スタンダード	12.1%
東証グロース	5.8%
コール・ローン等	2.9%
合計	100.0%

※コール・ローン等には未収・未払金が含まれます。

※組入比率は、マザーファンド純資産総額を100%として計算した値です。小数点以下第2位を四捨五入しているため、足し合わせでも100%に一致しないことがあります。

※新規公開株式は上場後の市場区分に分類しています。

## ■分配金実績(1万口あたり、課税前)

決算日	分配金
第5期 2021年06月29日	0円
第6期 2022年06月29日	0円
第7期 2023年06月29日	0円
第8期 2024年07月01日	0円
設定来累計	0円

※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。

## ■組入株式の業種別構成比

業種	比率
機械	13.3%
卸売業	11.1%
サービス業	9.8%
情報・通信業	8.5%
小売業	8.3%
電気機器	6.3%
その他製品	5.7%
陸運業	5.4%
化学	3.6%
建設業	3.6%
精密機器	3.5%
不動産業	2.9%
ガラス・土石製品	2.9%
その他金融業	2.9%
繊維製品	2.6%
食料品	2.5%
輸送用機器	2.4%
金属製品	2.1%
電気・ガス業	1.0%
ゴム製品	0.9%
パルプ・紙	0.4%
倉庫・運輸関連業	0.2%
石油・石炭製品	0.2%

※業種は東証33業種分類に基づきます。  
 ※比率は、マザーファンドが組入れている株式の評価額の合計を100%として計算した値です。

## いちよし中小型成長株ファンド

追加型投信/国内/株式

愛称  
あすよろ

## ■ファンドマネージャーのコメント

## ■ファンドコンセプト

いちよし中小型成長株マザーファンドは、国内の中小型株式の中から、個別企業の調査等に基づき、中長期的に投資魅力が高いと判断される銘柄に積極的に投資することにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。また、銘柄選別にあたっては、中小型成長企業の調査に特化した、「株式会社いちよし経済研究所」のリーサーチ力を活用します(いちよしアセットマネジメントは、いちよし経済研究所から銘柄選定に関する投資助言を受けています)。

## ■マーケット概況

2025年4月の国内株式市場は、乱高下を伴いながらも、月間ではほぼ横ばいとなりました。前半は米国の関税政策を巡る報道を受けて大幅に下落しましたが、後半にかけては同政策の緩和観測などを背景に、次第に水準を回復する展開となりました。

月初には、トランプ政権による「相互関税」の発表と中国の報復措置を受けて米中貿易摩擦が激化するとの懸念が高まりました。同政権が全世界に対して一律10%の関税を導入し、さらに国別に上乗せする「相互関税」を表明したことで、世界経済の減速懸念が広まりました。これに対し中国が報復措置を講じたことから、米中間の対立が一層深刻化するとの懸念が高まり、日経平均株価は一時31,000円台まで下落しました。しかし8日以降、トランプ政権が「相互関税」の発動を一部の国・地域に対して90日間猶予するとの方針を示したほか、対日交渉に前向きな姿勢を見せたことを受けて、国内株式市場は底打ちから反発へ転じました。

後半には、米中貿易摩擦の緩和観測と日米財務相会談での穏健な発言を背景に、国内株式市場は徐々に上昇基調を強めました。22日には、ベッセント米財務長官が「中国との貿易交渉の進展は可能」との考えを示したことで、米中貿易摩擦の緩和期待が次第に高まりました。そして日米財務相会談では、「通貨目標は求めない」と伝わると、円高への警戒感が和らぎました。これらを支援材料として国内株式市場は上昇し、前月末比でほぼ横ばいで終了しました。

## ■ファンド運用状況

当ファンドの2025年4月の運用状況は投資環境等を慎重に見極めながら、成長期待が大きく、投資魅力の高いと判断される銘柄を中心としたポートフォリオ構築に努めました。

組入上位銘柄はニチアス(5393)、アマノ(6436)となりました。

## ■FMコメント

4月の上旬、トランプ政権が相互関税を発動し株価は調整しましたが、その後、相互関税の上乗せ部分の90日間一時停止、日米交渉の進展などが好感され、月間で見ると上旬の下落を取り戻し、上昇して終わりました。また足下で発表される3月決算企業の2026年3月期ガイダンスを見ると、現段階では過度に関税の影響を織り込む銘柄も少なく、引き続き積極的な株主還元を実施する銘柄が散見されています。ただ関税の影響が過度に懸念される状況は無くなりつつあるものの、適用される業種、時期などは依然として明確になっておらず、当面、ボラティルな(値動きの激しい)相場展開が続くと考えます。

一方、ここ数ヶ月、日本の中小型株は良好なパフォーマンスとなっています。特に東証グロース市場の銘柄は海外の影響を受けず独自要因で増益を維持できる銘柄が多く、注目されています。また東証が進めるグロース市場改革も市場の活性化に繋がると見られ、そろそろ中長期を見据えた選別投資を進めるタイミングに入っていると判断しています。

組入銘柄の選定に関しては従来から変更はなく、ボトムアップ・リサーチをベースに、独自の成長を続けている銘柄を選別します。また資本効率改善の取り組みに積極的で安定成長が見込まれる銘柄にも着目していきます。中小型成長株の発掘で高い実績を持つ、株式会社いちよし経済研究所のリーサーチ力を十分活用しながら、ボトムアップ・リサーチにより、最適なポートフォリオの維持に努め、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行ってまいります。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう、宜しくお願い致します。

(注)実質的な運用を行うマザーファンドに係わるコメントです。

# いちよし中小型成長株ファンド

追加型投信 / 国内 / 株式

愛称 **あすよろ**

## ファンドの目的・特色

### ファンドの目的

いちよし中小型成長株マザーファンド(以下「マザーファンド」ということがあります。)受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場されている中小型株に投資し、信託財産の積極的な成長を目指して運用を行います。

### ファンドの特色

- 日本の中小型株式の中から、個別企業の調査等に基づき、中長期的に投資魅力が高いと判断される銘柄に積極的に投資します。**
  - マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、わが国の金融商品取引所に上場されている中小型株式(上場予定を含みます。)に投資します。
  - ボトムアップ・リサーチ※に基づき、中小型株式の中から、企業の成長性が高く、株価水準が割安であると判断される銘柄を発掘し、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行います。
  - ※ボトムアップ・リサーチとは、個別企業の調査・分析に基づいて投資価値を判断し、投資銘柄を選定する方法をいいます。(ボトムアップ・アプローチと称することもあります。)
- 中小型成長企業の調査に特化した、「株式会社いちよし経済研究所」のリサーチ力を活用します。**
  - 中小型成長株の発掘で高い実績を持つ、いちよし経済研究所のリサーチ力を活用します。
  - いちよし経済研究所は、いちよし証券グループのリサーチ部門として、中小型成長企業および新興市場企業に特化した調査活動を行っています。
  - 運用にあたっては、いちよし経済研究所から銘柄選定に関する投資助言を受けています。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国の株式への投資を行いますので、組入れた有価証券の値動きにより、当ファンドの基準価額は大きく変動することがあります。したがって、当ファンドは、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、解約・償還金額が投資元本を下回り、損失を被る可能性があります。運用により信託財産に生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドは、預貯金とは異なります。預金保険または保険契約者保護機構の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。 ※以下の事項は、マザーファンドのリスクも含まれます。

### 価格変動リスク

株式の価格動向は、個々の企業の活動や、国内および国際的な政治・経済情勢の影響を受けます。そのため、当ファンドの投資成果は、株式の価格変動があった場合、元本欠損を含む重大な損失が生じる場合があります。

### 株式の発行企業の信用リスク

当ファンドは、株式への投資を行うため、株式発行企業の信用リスクを伴います。株式発行企業の経営・財務状況の悪化等に伴う株価の下落により、当ファンドの基準価額が下落し元本欠損が生じるおそれがあります。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金がほとんど回収できなくなることがあります。

### 流動性リスク

流動性リスクは、有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく希望する時期に希望する価格で売却することが不可能となることあるいは売り供給がなく希望する時期に希望する価格で購入することが不可能となること等のリスクのことをいいます。市場規模や取引量が小さい市場に投資する場合、また市場環境の急変等があった場合、流動性の状況によって期待される価格で売買取引できないことがあり基準価額の変動要因となります。

(ご注意)以上は、基準価額の主な変動要因であり、変動要因はこれに限られるものではありません。

### その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- 収益分配金は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。したがって、収益分配金の水準は、必ずしも計算期間中におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、収益分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払い戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。収益分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、収益分配金の支払後の純資産は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に収益分配金の支払を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比較して下落することになります。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のペーパーファンドに追加設定・解約等に伴う資金変動等があり、その結果当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合などには、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

### リスクの管理体制

運用部門から独立したリスク管理業務およびコンプライアンス業務担当者が運用状況の評価・分析および流動性リスクを含む運用リスク管理、ならびに法令諸規則等の遵守状況のモニタリングを行っています。これらの結果等は、コンプライアンス・リスク管理部門が、リスク管理委員会、コンプライアンス委員会へ報告を行うほか、必要に応じて運用部門への是正指示、緊急時対応策の策定・検証などを行い、取締役会の監督のもと適切な運用態勢の維持・向上に努めています。

※上記体制は2025年4月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

## 委託会社その他の関係法人の概要

委託会社	いちよしアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第426号 〔加入協会〕 一般社団法人 投資信託協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会 (ファンドの運用の指図等を行います)
受託会社	株式会社りそな銀行 (ファンドの財産の保管および管理等を行います)
販売会社	販売会社のご照会先は、右記の表をご参照ください。 (ファンドの募集・販売の取扱い等を行います)

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
いちよし証券(株)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第24号	○	○		
(株)静岡中央銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第15号	○			
静岡東海証券(株)	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第8号	○			
七十七証券(株)	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第37号	○			
北洋証券(株)	金融商品取引業者 北海道財務局長(金商)第1号	○			
荘内証券(株)	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第1号	○			
大熊本証券(株)	金融商品取引業者 九州財務局長(金商)第1号	○			
(株)トマト銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第11号	○			
FFG証券(株)	金融商品取引業者 福岡財務支局長(金商)第5号	○			○
三豊証券(株)	金融商品取引業者 四国財務局長(金商)第7号	○			

※投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは、上記の販売会社へお申し出ください。



お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。
換金価額	換金(解約)申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金(解約)申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。 なお、販売会社によっては対応が異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
信託期間	原則として無期限(2016年6月29日設定)
決算日	毎年6月29日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回、毎決算時に、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除の適用があります。 益金不算入制度は適用されません。

ファンドの費用・税金

◆ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <b>3.3%(税抜3.0%)以内</b> ※購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明や情報提供など、ならびに購入に関する事務コストの対価です。
信託財産留保額	換金時の基準価額に対し <b>0.3%</b>

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	<p>ファンドの日々の純資産総額に以下の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、日々計上され、毎計算期間の最初の6か月終了日(当該終了日が休業日の場合はその翌営業日)および毎計算期末または信託終了のときに、信託財産から支払われます。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2">当ファンドの運用管理費用(信託報酬)(年率)</td> <td>年 1.584%(税抜 年1.44%)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">配分</td> <td>委託会社</td> <td>年 0.770%(税抜 年0.70%)</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>年 0.770%(税抜 年0.70%)</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>年 0.044%(税抜 年0.04%)</td> </tr> </table> <p>※マザーファンドの投資顧問会社が受ける報酬は、上記委託会社が受ける運用管理費用の中から支払われます。</p>	当ファンドの運用管理費用(信託報酬)(年率)		年 1.584%(税抜 年1.44%)	配分	委託会社	年 0.770%(税抜 年0.70%)	販売会社	年 0.770%(税抜 年0.70%)	受託会社	年 0.044%(税抜 年0.04%)
当ファンドの運用管理費用(信託報酬)(年率)		年 1.584%(税抜 年1.44%)									
配分	委託会社	年 0.770%(税抜 年0.70%)									
	販売会社	年 0.770%(税抜 年0.70%)									
	受託会社	年 0.044%(税抜 年0.04%)									
その他の費用・手数料	<p>監査費用、目論見書等の作成、印刷、交付費用および公告費用等の管理、運営にかかる費用、組入価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用等が、信託財産より支払われます。 ※ 監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用です。 ※ これらの費用等は、運用状況等により変動するため、料率、上限額等をあらかじめ表示することが出来ません。</p>										

上記、ファンド費用の合計額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することが出来ません。

◆税金

税金は表に記載の時期に適用されます。

以下の表は個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※ 少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした商品を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※ 法人の場合は上記と異なります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

この資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的にいちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、金融商品取引法に基く開示書類ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性・完全性について保証するものではありません。
- 当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他のいかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- ファンドは、主に国内株式に投資を行いますので、株式の価格変動等の影響により基準価額は上下し、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は預金等や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- ファンドに生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。
- お申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
- 市況動向、資金動向その他の要因等によっては、ファンドの特色に合致した運用ができない場合があります。